コロンビア経済情勢（7月分）

1 概要

【ポイント】

- コロンビア中央銀行は、今年の経済成長率を3.5%から3.1%に下方修正。
- ハス種アボカドの日本向け輸出解禁。
- 29～31日、ドゥケ大統領が中国を訪問。

2 本文

主な出来事

<国内情勢>

（1）経済成長率を下方修正（31日、当地紙報道）

コロンビア中央銀行は、IMF等の統計情報を踏まえて、内需が昨年と同程度と見込まれるのに加え、世界経済の不安定さから輸出が伸び悩むと予想されることから、今年の経済成長率の予想を3.5%から3.1%に下方修正した。また、農業、鉱業、情報技術、通信の分野は成長が伸び悩んでいる。また、中央銀行は、インフレ傾向は明らかであり、2020年の3%のインフレ目標を達成しうることを強調した。

（2）ドゥケ政権2年目の課題（28日、当地紙報道）

ドゥケ政権2年目の主な経済的課題は、3.5～4%の経済成長を達成すること、失業率を改善すること、年金改革を推し進めること、オレンジ経済の分野で大きな前進を行うこと、消費者と起業家の信頼感を回復することが挙げられる。

（3）6月のインフレ率が年率3.43%に増加（6日、当地紙報道）

国家統計長（DANE）は、6月のインフレ率が0.27%上昇したと発表した。前年同月の上昇率は0.15%だった。前年同期のインフレ率は2.71%で、前々年同期は2.47%であった。過去12ヶ月インフレ率は引き続いて上昇して3.43%となった。前年同期では3.2%であった。食品及びアルコール飲料（0.86%）、レクリエーション及び文化（0.53%）、輸送（0.45%）などがインフレ率を押し上げた。高い上昇率ではあるものの、現在のところ中央銀行が設定した目標範囲内に収まっている。

（4）政府は2020会計年度（1～12月）における一般会計予算案を通常国会に提出（30日、財務・公債省プレスリリース及び当地報道）

29日、政府は271.7兆ペソ（約827億ドル）に及ぶ2020年会計の予算案を通常国会に提出した。総額は2019年度予算に比べ4.1%増加している。カラスキージャ財務相は、本予算は3.6%の経済成長目標を達成するのに、ぎりぎりの予算である旨述べた。予算案の内、投資額は前年比0.9%減の40.4兆ペソ（124億ドル）、経常支出は前年比9.9%増の172兆

ペソ（約 526 億ドル）、公債の返済額は前年比 14.2%増の 59.2 兆ペソ（約 181 億ドル）となっている。

最も多くの予算が割り当てられたのが、教育分野で前年比 6.7%増の 43.1 兆ペソ（約 132 億ドル）、国防分野が 6.8%増の 35.7 兆ペソ（約 109 億ドル）、厚生分野が 7.8%増の 31.8 兆ペソ（約 97 億ドル）となった。他方、予算が削減されたのは、鉱業、エネルギー、農業分野である。

憲法の規定により、予算案は 10 月 20 日までに国会の承認を得る必要があるが、その過程でいくつかの変更が加えられることが予想される。

（5）政府は保有している企業株を売却して 250 億ドルを調達（11 日、当地紙報道）

カラスキージャ財務・公債相は、政府が保有する収益性の低い 150 社の株を段階的に売却し、250 億ドルを調達する旨述べた。これらの株は、政府が小口株主であるエネルギー、通信、輸送及び金融分野の企業のものであり、なお、これらの株で政府は、年間 6 兆ペソ（約 18.61 億ドル）の収入を得ていた。政府は、エコペトロール社などの大企業の株の売却は考えていない。

（6）慌ただししい国会審議（20 日、当地紙報道）

2019 年下半年に国会で審議される重要法案には、2020 年会計年度予算、税制改革、**租税条約の承認**が挙げられる。他方、年金改革に関する議論は来年に持ち越される見込み。

（7）4G 計画による二つの幹線道路建設のための決算書に署名（10 日、当地紙報道）

16 日、マヌエル・グティエレス（Manuel Gutierrez）インフラ担当次官は、アンティオキア県のカニヤスゴルダス（Ganasgordas）とネコクリ（Necocli）を結ぶ高速道路であるマール・ドス（Mar 2）の決算書に署名をした。また、月末にはナリーニョ県のパスト（Pasto）とルミチャカ（Rumichaca）を結ぶ二車線道路の決算書にも署名した。これまでに、4G 計画による 29 の道路のうち、14 のルートの決算書に署名がされている。

（8）ボゴタメトロ計画（12 日、23 日、当地紙報道）

本年 10 月に行われる統一地方選挙の結果、来年ボゴタ市長が替わるため、現在進行中のボゴタメトロ計画は変更される可能性がある。アレクサンドレ・メイラ（Alexandre Meira）米州開発銀行副総裁は、計画に変更があった場合、その変更が構造的、社会的、法的、経済的レベルでどのような影響があるか確認を行うものの、米州開発銀行が提供する資金が撤回されることは無い旨述べた。

また、経済社会政策方針（Conpes）は、ボゴタメトロ社が国内外の企業と契約を結ぶ際に、国が 7.8 兆ペソ（約 2281 億ドル）まで公的保証を行うことを決定した。これは、ボゴタメトロ計画のような、協調融資を用いたプロジェクトの保証を行うことを許諾する国家

開発計画 2018-2022 に基づくものである。エンリケ・ペニャロサ (Enrique Peñalosa) ボゴタ市長は、ボゴタメトロ計画はすでに国際公開入札が行われており、年末には落札される見込みであることから、非常に重要なステップに進んでいることから、ほかの地下鉄計画と異なる旨述べた。

(9) NEC とメデジンメトロの提携 (15 日, 当地紙報道)

NEC とメデジンメトロはコロンビア及びラテンアメリカで、高度道路交通システムを構築、促進していくための協定に署名した。メデジンでの署名式には、両社社長が出席した。

(10) ハス種アボカドの日本向け輸出解禁 (25 日, 当地紙報道)

日本の農林水産省は、31 日付けでコロンビア産ハス種アボカドの輸入を解禁するとコロンビア政府に通知した。日本は、近年 2.1 億ドルものアボカドを主にメキシコから輸入している。コロンビアは世界第 4 位のアボカド生産国であり、商工観光省によると、今年 1~5 月の 5 ヶ月だけですでに 4,710 万ドルのアボカドを、主にオランダと英国向けに輸出している。バレンシア農業・地方開発相は、これは政府が推進した検疫外交の結果である旨述べた。また、ラウラ・バルデビエソ (Laura Valdivieso) 商工観光省次官は、アボカドの最も重要な市場の一つで承認を得たことは、非常に重要な社会的影響力を持つ旨述べた。

(11) 農業分野に 4 億ドルの投資を準備中 (18 日, 当地紙報道)

政府高官は、「農業エクスポ」フェアにおいて、農業分野支援について説明を行った。レストレポ商工観光相は、二つの農業産業企業が既にコロンビアで 2.5 億ドルの投資について言及していると説明した。この分野に投資する外国企業は、6%の所得減税を受けられる。

運輸省は、政府は今年、地方の幹線道路の整備に 1.5 億ドルを割り当てる旨述べた。労働省は、農業分野の労働者に社会保障給付を行うよう、法令を整備する方針。国防省は、グリホサート (除草剤) 空中散布プロジェクトの再編成を目指す方針を示した。教育省は、包括的な幼児教育と初等教育から中等教育までのカリキュラムの再設計を目指すとした。また、ヘウディ・カストロ情報技術・通信省デジタル・エコノミー担当次官は、政府は農村部でのインターネット接続について、70%を目標として引き上げる旨述べた。

(12) オレンジ経済関連企業の設立が 9.4%増加 (19 日, 当地紙報道)

オレンジ経済の分野で、今年 1~6 月までの間に 5,014 社が新たに設立された。これは、昨年同期の 4,582 社に比べ 9.4%の増加となる。コロンビア商工会議所連合 (Confecamaras) は、2019 年の第一四半期に、178,844 件の事業体が新たに登録された旨述べた。

(13) 国勢調査によって高齢化が明らかに (5日, 当地報道)

5日, 国家統計庁 (DANE) は, 2018年に行った国勢調査の最終結果を発表した。これによると, コロンビアの推計人口は4820万人となる。また, 人口の大部分は14歳から28歳の範囲に収まっているものの, 15歳の若者100人あたり, 65歳以上の人口が40人になると推定され, 高齢化が進行しているといえる。ボゴタの人口は, 7,181,469人で, 郊外に人口が流出したため, 都心では人口が減少している。

(14) 車両販売数の増加 (3日, 12日, 当地紙報道)

3日, コロンビア自動車輸入協会 (Andemos) は, 6月の自動車販売台数が19,489台と, 前年同月と比較して6.4%増加した旨発表した。6月までの累計販売台数は116,210台で, 2018年の同期と比較して2.4%増加した。6月の累計販売数が多いブランドは, ルノー, シボレー, マツダ, 日産となった。

また, BBVA は, 今年の新車の販売台数は0.8%増加して, 258万台に達すると予想した。コロンビアの世帯収入の増加と, 金利とインフレの安定によるものとした。

<対外経済関係>

(1) ドウケ大統領訪中 (29日, 30日, 31日, 当地紙報道)

29~31日, ドウケ大統領は, トルヒージョ外相, レストレポ商工観光相, オロスコ運輸相, バレンシア農業相, サントロ・プロコロンビア総裁とともに訪中。主に, 投資, 貿易などの分野での協力促進を目的として, 15の文書に署名するとした。中国市場に向けて, コロンビア製品の輸出を倍増させ, また, 中国からコロンビア市場に観光客や投資家を呼び込む狙いがあった。

(2) アジア人観光客の増加 (18日, 当地紙報道)

今年の1~5月に掛けて, アジアからコロンビアを訪問した観光客は, 36,293人に及んだ。この内, 最も多いのは中国で8,360人, 次が韓国で4,519人, 3位は日本を抜いてインドの4,158人となった。

(3) 太平洋同盟首脳会談 (6日, 当地紙報道)

4日及び5日, ペルーで開催された太平洋同盟首脳会談では, 加盟国 (コロンビア, チリ, メキシコ, ペルー) 間の経済, 政治, 社会分野での統合及び, 投資や観光分野での連携の強化が確認され, エクアドルの同盟加盟への取組を加速することとした。また, 統合プロセスは成功しているものの, 効果は限定的であり, 課題として域外からの直接投資や加盟国間の貿易量の増加が挙げられた。加えて, 域内の企業は, 貿易量の増加の優先的な要件としてインフラの整備を挙げた。

(4) コロンビアはカリブ共同体 (CARICOM) 加盟国との二国間協定に署名 (1 日, 当地紙報道)

カルタヘナで初めて開催された, コロンビア・カリコム首脳会談で, 政府は, 15 のカリブ共同体加盟国とさまざまな分野の二国間協定に署名した。これは, コロンビアとカリブ共同体の間で, 貿易, 投資, 文化交流の分野でより強力な結びつきを促進するためである。現在, コロンビアはカリブ海諸国に 12 億ドルを輸出し, 2 億ドルの輸入がある。

(5) 世界コーヒーフォーラムの開催 (6 日, 当地紙報道)

10 日及び 11 日, ブラジルのカンピニャス (Campinas) 市において, 第 2 回世界コーヒー生産者フォーラムが開催された。このフォーラムには, 生産コストをカバーできないほどコーヒー価格が下落しており, コーヒー農家が廃業に追い込まれていることから, コーヒー産業の持続可能性を追求する目的がある。

<経済指標>

(1) 経済活動全般

(ア) 実質小売売上高指数 (DANE 発表)

5月の実質小売売上高指数は前年同月比8.2%であった。

(イ) 消費者信頼感指数 (Fedesarrollo 発表)

5月の消費者信頼感指数 (ICC) は、▲5%と前月 (▲9.6%) を4.6ポイント上回り、前年同月8.9%を13.9ポイント下回った。

(2) 産業動向

(ア) 石油生産量 (鉱山・エネルギー省発表)

6月の石油生産量は日量89.2万バレルであり、前年同月比4.28%となった。

(イ) コーヒー

(i) 生産 (コーヒー生産者連盟 (FNC) 発表)

FNC加盟コーヒー生産者による6月のコーヒー生産量は121.1万袋(1袋=60kg)となり、前年同月比11.4%となった。

(ii) 価格 (国際コーヒー機関発表)

6月のコロンビア産マイルド・アラビック・コーヒーの価格は月平均1ポンド=1.32ドル (前月は同1.23ドル、前年同月は1.39ドル) であった。

(ウ) エネルギー需要

6月のコロンビアのエネルギー需要は5,883GWh、前年同月比3.74%であった。

(3) 物価・雇用 (DANE 発表)

(ア) 物価

6月の消費者物価上昇率は0.27%、生産者物価上昇率は▲1.61%であった。

(イ) 雇用

6月の全国平均失業率は9.4%と、前年9.1%より0.3ポイント悪化した。また、主要13都市の平均失業率は10.7%と、前年同月の11.1%より0.4ポイント改善した。

(4) 貿易収支 (DANE 発表)

5月の貿易収支 (FOB) は、8.2億ドルの赤字であった。輸出 (FOB) 全体では、前年同月比6.1%の47.89億ドル、輸入 (CIF) 全体では、前年同月比1.2%の37.65億ドルとなった。

3 主な経済指標

(1) 経済活動指数 (単位：％，出所：DANE)	2018/5	2019/3	2019/4	2019/5
(ア) 実質工業生産指数 (前年同月比)	2.9	3.2	-1.3	3.2
(イ) 実質工業売上高指数 (同)	4.0	1.6	1.8	4.7
(ウ) 実質小売売上高指数 (同)	5.9	5.3	4.0	8.2
(エ) 新規建設着工承認面積 (単位：万㎡)	199.5	175.7	163.3	195.0
(2) 失業率 (単位：％，出所：DANE)	18/6	19/4	19/5	19/6
(ア) 全国平均	9.1	10.3	10.5	9.4
(イ) 主要13都市平均	11.1	11.1	11.2	10.7
(3) 消費者物価上昇率 (単位：％，出所：DANE)	18/6	19/4	19/5	19/6
(ア) 前月比	0.15	0.5	0.31	0.27
(イ) 前年同月比	3.2	2.12	2.44	2.71
(4) 政策金利 (単位：％，出所：中央銀行)	18/6	19/4	19/5	19/6
	4.25	4.25	4.25	4.25
(5) 為替 (対ドル為替レート) (単位：ペソ，出所：中央銀行)	18/6	19/4	19/5	19/6
(ア) 月初	2,889.32	3,174.79	3,233.97	3,377.16
(イ) 月末	2,930.80	3,247.72	3,357.82	3,205.67
(ウ) 最高値	2,945.09	3,247.72	3,375.29	3,377.16
(エ) 最安値	2,828.42	3,095.66	3,233.97	3,177.94
(6) 株式指数COLCAP (単位：ポイント，出所：COLCAP)	18/6	19/4	19/5	19/6
(ア) 月初	1,564.47	1,581.90	1,562.02	1,497.35
(イ) 月末	1,577.01	1,590.38	1,487.00	1,548.98
(ウ) 最高値	1,577.01	1,625.21	1,562.02	1,560.19
(エ) 最安値	1,522.66	1,572.75	1,463.38	1,483.42
(7) 貿易 (単位：百万ドル，出所：DANE)	18/5	19/3	19/4	19/5
(ア) 輸出額 (FOB)	3,681.6	3,337.5	3,866.7	3,765.0
(イ) 同 年内累計	17,159.8	9,588.6	13,460.1	17,222.5
(ウ) 輸入額 (CIF)	4,513.3	4,301.1	4,528.5	4,788.9
(エ) 同 年内累計	20,204.3	12,554.6	17,083.1	21,871.9
(8) 労働者送金 (単位：百万ドル，出所：中央銀行)	18/6	19/4	19/5	19/6
	494.0	581.2	635.2	508.4
(9) ガソリン価格 (単位：ペソ，出所：鉱山・エネルギー省)	18/6	19/4	19/5	19/6
注：ポゴタのレギュラーガソリン1ガロン当たり	9,138	9,586	9,586	9,586
(10) 自動車販売台数 (単位：台，出所：ECONOMETRIA)	18/6	19/4	19/5	19/6
(ア) 単月	18,324	19,788	22,298	19,489
(イ) 年内累計	113,491	74,423	96,721	116,210